

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	387300593
法人名	有限会社 おきた建築
事業所名	グループホーム おきた
所在地	伊予郡砥部町原町370-1
自己評価作成日	平成27年9月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

管理者の地元で、職員も近所や町内の方が多く、開設当初より地域に密着しています。和風住宅を改築した造りのホームで、とても家庭的な雰囲気があります。食事は手作りを心掛け、ホームの畑で採れた野菜や、旬の食材で利用者様と一緒に調理し、とても好評です。医療面においても、日々の健康管理や観察を丁寧に行い、緊急時には早急な対応がとれる体制にあります。また、職員の離職はほとんどなく、利用者様やご家族様と馴染みの関係が築けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

長年勤める職員が多く、定年退職者以外職員の入れ替りは少ない。法人の取り組みとして、時々職員の慰労会を催しており、職員間の関係を深めたり、勤続10年の職員には法人から記念品を贈っている。調査訪問日の昼食は、自家製の里芋を使った芋炊きや秋刀魚、さつまいもご飯が食卓に並び、利用者は「秋はやっぱり秋刀魚やね」と話しながら食事していた。利用者は、らっきょうの皮むきやつくしの袴取りは特に熱心にされるようだ。「昔は朝、息子3人のお弁当を作っていたから」と朝食の準備を職員と一緒に行う方がいる。正月のおせち料理もすべて手作りしており、利用者は華やかで喜ばれるようだ。誕生日には、ご本人の好きなメニューで祝っており、お寿司を希望する方が多い。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム おきた

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

沖田 るみ子

評価完了日

平成 27 年 9 月 1日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 家庭的な雰囲気をとても大切にしている。理念はホーム内にも掲示し、ミーティングや日々のケアの中でも再確認している。	
			(外部評価) 事業所は、「私たちは住み慣れた地域の中で家庭的な雰囲気のもと、その人らしさを大切に、穏やかで安心した暮らしが継続できるようご家族とともに支援します」と理念を掲げており、管理者は、家庭的雰囲気を大切に取組んでいくよう職員に話している。リーダー職員は、「家族だったらどう接するだろう」と考えながらケアに取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 管理者、計画作成担当者も同じ地域に住んでおり地域との付き合いは自然に行っている。職員も町内の者が多い。利用者様も近隣の方が多く、入居前からのご家族様同士のつながりもあつたりと地域に密着していると感じる。地域の祭りやイベントにも参加し日常的に交流が図れている。	
			(外部評価) 法人代表者は地元の方で地域の方との関係が深く、野菜等のおすそ分けがあつたり、事業所行事を手伝ってくれたりする。又、介護相談を受けることもある。麻生小学校の運動会に飾る紙花作りを継続して行っており、今年も利用者と一緒に作って贈った。今年も小学校の記念行事に利用者も出席した。町内一斉清掃の折には、利用者も参加して地域の方と一緒に掃除をした。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域や、御近所の方の相談を受けたり、地域包括支援センター等へ繋げるなどする事もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、様々なテーマで、事業所の取組みを報告している。イベントの運営推進会議では普段出席されないご家族様にも多数参加いただくことができた。引き続き多数のご家族様が参加できるよう文書だけの案内ではなく、個別の声掛けを行いたい。</p> <p>(外部評価) 会議は、ご家族から「行事だと参加しやすい。堅苦しい会議は苦手」という意見があり、年間5回は系列グループホームと合同で餅つきやお花見、芋炊き等行事と併せて行っている。年間1回は、事業所単独で行い、自己・外部評価結果について報告している。会議には、4~7名のご家族の参加があり、親睦を深める機会にもなっている。</p>	<p>今後もさらに、会議を通じて、いろいろな方とつながりを深めたり、いろいろな立場の方から意見を聞けるよう工夫を重ねていってほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議には出席していただいております。何でも相談できる関係にある。</p> <p>(外部評価) 近所に、気になる高齢者の方がいれば、地域包括支援センターに相談してつなげている。月1回、介護相談員の訪問がある。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 所内研修で毎年、身体拘束に関する研修を実施している。職員は再度理解を深めることができている。赤外線センサー等も利用し身体拘束のないケアを実践できている。施錠は防犯のため夜間のみ実施している。</p> <p>(外部評価) 調査訪問時、玄関は網戸にして自由に出入りできるようにしていた。2階の階段口は、夜間のみ転落予防のため木のフェンスを付けている。現在、ベットからの立ち上がり時に転倒の心配がある方が2名おり、センサーを付けて利用者の動きを職員がいち早くわかるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法についても研修を実施した。不適切なケアを放置せず、職員個々が気持ちに余裕をもって利用者様と接し、職員同士で声掛けが行えるよう努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者や計画作成担当者は、権利擁護や成年後見制度について理解しており、相談があれば適切にアドバイスを行うことができる。所内研修で権利擁護と成年後見制度について研修は実施したが、職員の中には理解が不十分な者もいる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には必ず、重要事項説明書を読み合わせし、説明を行っている。疑問点に関しても丁寧に説明し同意を得ている。また、分からない事はいつでも、連絡して下さいと伝えている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 管理者やケアマネジャーはご家族様に、意見や要望は遠慮なく伝えてほしいと、ケアプランの説明や運営推進会議の際には話している。職員の中にもご家族から要望や意向を引き出せるようなかかわりが出来ている者もいる。 (外部評価) ご家族に向けて2ヶ月ごとに系列事業所と合同の「おきた・砥辺通信」を発行しており、ご家族からは「写真で様子がわかり良い」と感想がある。ご家族来訪時には、その日に勤務する職員が利用者の日常の様子や健康状態を報告するよう努めており、職員がケアに困っていること等も含め「利用者のありのままの様子を報告」して、ご家族も遠慮なく意見や要望を出してもらえよう話している。ご家族は、来訪時に食事介助したり、寝具を持ち帰り洗濯する等してかかわっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員の意見や提案を聞いて、出来る事は反映させ管理者と職員のコミュニケーションはとれている。しかし不満や苦情は言い難い部分もあり、意見が出にくい場合もあるのではと思う。	
			(外部評価) 長年勤める職員が多く、定年退職者以外職員の入れ替りはない。法人の取り組みとして、時々職員の慰労会を催しており、職員間の関係を深めたり、勤続10年の職員には法人から記念品を贈っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員にとって働きやすい環境や、条件となるような事は努力している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修の案内は必ず職員に周知し、希望者はいつでも参加できる態勢にあるが、今年度は外部研修への参加が少なかった。所内研修は様々なテーマ(リスクマネジメント、食中毒について、認知症ケア、コンプライアンス等)で実施できており職員のスキルアップが図れている。また毎日職場の教養を読み合わせし、仕事に対する心構えや日々の生活の振り返りが行えている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者や計画作成担当者は、同業者と交流する機会はある。現在、職員同士の交流はない。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の生活をよく知り、安心して生活できるように努めているが、急な入居になる場合が多く十分ではない場合もある。入居後多くかかわりを持ち、不安や要望を汲み取るようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>管理者や計画作成担当者は不安や困っている事、要望等は気軽に尋ねてほしいと常に伝えている。また職員も、ご家族様の不安や要望を引き出せるよう努めているが職員個々の力量は様々である。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族様、利用者様の希望や要望を聞き様々なサービスを選択できるよう一緒に考え対応している。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員が全てしてしまうのではなく、利用者様が自分でできる事はお手伝いをお願いしたり、一緒に家事を行ったりすることで、共に生活し協働できる関係づくりに努めている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様を共に支える為に、状態を報告したり、ご家族様をお願いしたい事を頼む等、利用者様とご家族様の架け橋となり支え合う関係が築けるよう努力している。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族様にも、馴染みの方にホームへ面会していただくようお願いしている。また、ご家族様以外のお客様の面会にも再度来訪していただけるよう声掛けや雰囲気作りを行っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>他グループホームを利用しているご主人に会いに行けるよう送迎等している。友人の訪問時には、居間や居室でゆっくり過ごしてもらえよう、お茶を入れて気配りをしている。手紙のやり取りをする方には、ハガキや便せんを用意して職員が投函している。職員の送迎で馴染みの美容室を利用している方もいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員も一緒になり歌を歌ったり、会話を楽しんだりし、仲の良い利用者様同士で過ごす時間を設ける等している。また、孤立しがちな利用者様も他の利用者様と交流が図れるよう支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 管理者や計画作成担当者は、退居時に今後も相談に乗れる事を必ず告げている。また他のサービスへ移行する際には、詳しい介護サマリーを作成し、しっかり申し送り、出来る限りのアフターフォローを行えている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者様の思いや意向を日々のかかわりの中から把握するように努め、把握できた意向についてはミーティング等で検討し叶えられるよう努めている。 (外部評価) 入居時にフェースシート、アセスメントシートを作成し、その後知り得た情報はその都度追記している。2年ごとにアセスメントを更新しており、その際には2年間の経過を要約して、あとから見た時に分かりやすいようにしている。職員は、利用者の生活歴を会話の糸口にして、個々の暮らしの希望、意向を聞く等工夫している。毎週日曜日は「レクリエーションの日」と決め、利用者の希望を聞き、習字、歌、ゲーム等を楽しむ時間を作っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に利用者様、ご家族様よりアセスメントシートをもとに聞き取りを行い、今までの生活歴を把握するよう努めている。また、担当ケアマネジャーや、関係機関からも情報を得るようにしている。入居後も日々の関わりの中から、これまでの暮らしの把握を行い、その人らしい生活が送れるよう努めている。把握した内容でホームでも継続可能な事は出来るだけ継続できるよう支援している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ミーティング時に利用者様ごとに話合いを持ち、職員同士の情報交換に努めている。また受け持ち担当を決め、担当職員が責任をもって支援するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ミーティング時に意見を出し合い、利用者様個々の生活に適したケア内容を盛り込み介護計画を作成している。評価、立案したプランは報告説明し意見をいただくようにしている。ご家族様の意向や要望の表出は少ない。</p> <p>(外部評価) 職員から「実際に行っているケアが計画に位置付けられていないのではないか」「介護計画に実現可能な事があるとよいのではないか」と提案があり、洗濯たたみや調理等下ごしらえ、食器片付け等、日課にしていることを介護計画に組み込んだ。この1年間は、月1回のミーティング時にモニタリングを行い、3ヶ月ごとに評価見直しを行っている。ケース記録のファイルの裏表紙に介護計画書を貼り、計画内容には番号を振り日々記録している。</p>	<p>アセスメントを介護計画につなげていけるよう取り組み、今後さらに、利用者一人ひとりの暮らしを拡げていけるような介護計画作成に工夫してほしい。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別ファイルに、日々の暮らしの様子や本人の言葉、行動等記録している。バイタルサインや、排泄の状態、食事量、飲水量、清潔支援、ケアプランの実施状況等に関しても日々状況を記録している。また必要時には来訪された家族様に日々の記録を閲覧していただくこともある。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 通院介助や、入退院のお迎え、個別外出の支援、ご家族様への食事の提供等、様々なケースや状況に対し、常に臨機応変で柔軟な対応がとれている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 利用可能な地域の社会資源は利用できている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価) 協力医療機関のみならず、希望される医療機関を受診 できるよう常に支援している。協力医院からは、月1回 の往診があり、密な連携がとれ、適切な医療が受けれ ている。</p> <p>(外部評価) 月に1回の往診の2週間後に、利用者の体調等の変化につ いてFAXで報告している。受診結果は、利用者個々の受診 記録に記入し、ご家族来訪時に見てもらうこともある。 急な受診は、職員が対応しており、ご家族に電話で報告 している。夜間急変時は協力医療機関で対応してくれる ようになっているが、事業所では、日中の体調変化を見 逃さないことに努力しており、これまでに夜間救急対応 が必要になったことはほとんどないようだ。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価) 職員は体調の変化や、バイタルサインの異常を見逃さ ないよう早期発見に努め、変化があれば、すぐに管理 者や看護師に報告対処し健康管理に努めている。また、 協力医療機関の訪問看護師とも連携がとれてい る。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよ うに、また、できるだけ早期に退院できるよ うに、病院関係者との情報交換や相談に努め ている。または、そうした場合に備えて病院 関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 協力医療機関での入院中は主治医、病棟看護師、家族 様と密に連絡を取り合い、早期に退院できるよう働き かけ、入院によるダメージを最小限にできるようにして いる。また、それ以外の病院入院に関してはご家族様 と連絡を取り合い情報交換を行うようにしている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 重度化や看取りに関して指針を定めている。利用者様 ごとに状況を見ながら、ホームがどのような支援を行 えるのか、その都度検討しながら実施するようにして いる。現在そのようなケースはおられない。</p> <p>(外部評価) 入居時、利用者ご家族には看取りの指針を渡し、体調 悪化や重度化してきた段階で今後の方針について話し 合っている。管理者は「医師、家族の協力があれば利 用者の状況に応じて看取り支援について考えたい」と 話していた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 所内研修やミーティングで対応を話している。マニュアルは把握しているが実際に動けるか不安はある。さらに、勉強会を重ね、実践力を身につけて、職員個々のレベルアップを図りたい。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 昨年10月の消防避難訓練は運営推進会議で行い家族様にも参加していただいた。また、砥部町防災担当係の方からも南海トラフ地震について講習を受けた。近隣の方へ災害時に協力が得られるよう働きかけも行っている。 (外部評価) 年2回、消防署立ち合いのもとで避難訓練を行っている。訓練には、地域の方も参加しており、災害時の協力もお願いしている。今年3月には、火災報知器から連動させて消防署へ自動通報する設備を整備した。又、今春、事業所駐車場横に台所も備え付けた避難所を建設しており、地域の方にも避難場所として利用できることを知らせた。各居室にヘルメットを備え、米、水、おむつを備蓄している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様に対し常に敬意や尊敬の態度で接するようミーティングで常に話し合っている。親しみや、慣れから言葉がおごそかになる場面もあり、さらに気をつけていきたい。プライバシー保持に関しては責任ある取扱いを行う事を、職員一人一人が徹底できている。 (外部評価) 管理者は、「利用者親しみを持って接する中にも、人生の大先輩であることを忘れないように」と職員に話している。リーダー職員は、職員の気になる言葉かけがあれば言い換えを提案したり、話し合ったりしている。利用者が職員を名前で呼べるようにと、職員のエプロンにはそれぞれの名前を刺繍しているが、実際は「お姉さん」等と呼ばれる事が多いようだ。調査訪問時、職員は、利用者にゆっくり丁寧に話しかけていたが、子どもに話しかけるような対応をしている場面も見られた。利用者、職員ともに地元の方が多く、管理者は個人情報保護についても職員に話している。事業所通信は、名前をイニシャルにしたり、顔写真使用についてはご家族に許可を得ている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の関わりを通して、利用者様の希望や要望が言い易い環境作りに努めている。意思表示が困難な方は、表情や行動を見て読み取り対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の勤務の都合にあわせる場面も多くある。自分の時間を過ごせる方は、自由に個々のペースで過ごしてもらっているが、やむおえない状況も多々あり難しいことがあるが、利用者様1人1人がその人らしい生活がおくれるよう職員一丸となって取り組んでいる。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 身だしなみが整えられるよう日々支援している。一緒に衣料品を買いに行き、好みの洋服を購入する方もある。髪どめをつけたり、毛染めにお連れしたり、利用者様個々におしゃれを楽しめるよう努めている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 畑で収穫した野菜や、購入した旬の食材を使い毎食手作りで家庭的な献立である。野菜の収穫や、調理の下ごしらえ、食後の片づけ等、利用者様個々の能力に応じたお手伝もしていただいている。利用者様からも「この食事はおいしい。」と満足の声がよく聞かれ、うれしく思う。 (外部評価) 調査訪問日の昼食は、自家製の里芋を使った芋炊きや秋刀魚、さつまいもご飯が食卓に並び、利用者は「秋はやっぱり秋刀魚やね」等と話しながら食事していた。食材は、毎日スーパーに買い出しに行き、自家栽培野菜等も使用している。利用者は、らっきょうの皮むきやつくしの袴取りは特に熱心にされるようだ。「昔は朝、息子3人のお弁当を作っていたから」と朝食の準備を職員と一緒にやる方がいる。正月のおせち料理もすべて手作りしており、利用者は華やかで喜ばれるようだ。誕生日には、ご本人の好きなメニューで祝っており、お寿司を希望する方が多い。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 脱水には特に気をつけ、1日の水分量が1200cc以上を目標に摂取していただいている。食事はバランスの良い野菜中心の献立にし、利用者様の食べる量や、好み、嫌いな物について把握するよう努めている。また、血液検査データなどからも、全身の栄養状態をチェックしている。利用者様個々の状況に合わせ、食事の形態も刻みやとろみをつける等、食べ易い工夫をしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後のうがいや歯磨き(一人一人に応じた方法を用いて)義歯の洗浄、就寝前の口腔ケアは実施できている。口腔内の異常を早期発見し歯科受診等につなげ、口腔環境を整えるよう気を付けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 起床時、食事前、おやつ前、就寝前に、トイレへのさりげない声掛けを行っている。パットや紙パンツはこまめに交換し、不衛生にならないよう気をつけ、必要な方へは下半身シャワー、陰部洗浄等適宜行っている。日々の関わりから排泄パターンや、排便前のサインを見逃さないようにかかわりを行っている。紙パンツやオムツの使用方法についても講習を受け、排泄面での失敗が少ない使用方法を学んだ。	
			(外部評価) 排便については、利用者個々に毎日決まった時間にトイレに座れるよう支援して、全員がトイレで排便できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 日々排泄の状況を把握する様努めている。水分摂取に気をつけ、野菜の多い献立となるようにしている。個々の利用者様に合わせ、便秘解消の食材（果物や乳製品）を提供し便秘改善に向け働きかけている。また、緩下剤の効能を把握し、上手に利用しながら便秘にならないよう働きかけている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の回数や曜日は職員の勤務に合わせている。一人一人の入浴に関しては、湯加減、長さ等は個人の好みに合わせている。利用者様の状態に合わせて半介助やリフト浴などに対応し、気持ちのよい入浴支援が出来ている。マンツーマンでのケアで利用者様と会話が弾む事も多い。	
			(外部評価) 利用者全員が浴槽で温まれるよう支援しており、浴槽をまたぐことが難しい2名の方はリフトを使って支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者様個々の生活リズムや状況に応じて、自由に居室やソファで休まれたり、横になる等していただいている。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 飲み忘れや誤薬がないよう、職員間で必ず確認し合うようにしている。お薬手帳や説明書は、いつでも確認できるようにしており、わからない事があればその都度調べたり薬剤師に質問する等、薬の把握に努めている。薬効については症状の変化を確認しながら、随時主治医に報告相談している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様個々にあったお手伝いや、出来る事を見つけ、日々していただいている(歌、日記、書道、散歩、体操等)。さらに日々のかかわりから、出来そうな事をみつけて、ホーム内での気分転換や、楽しみ事をおこなえるよう努めたい。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 可能な限り、散歩等の外出は行っている。個別の外出も必要に応じ行っている。職員がボランティアで地域のイベントにお連れすることもあるが決まった利用者様になりがちである。利用者様の体調、状況により遠方への外出はほとんど行っていない。また介護度が重い利用者様に対しても外に出る支援がほとんど行っていない。	
			(外部評価) 団地内を散歩したり、重度の方は1階のウッドデッキに出て日向ぼっこできるよう支援している。町内の七折梅まつりや広田道の駅に出掛けたり、町文化会館にカラオケ大会を見に行ったりしてる。職員は、毎日の食材の買い物時に利用者を誘うが、利用者は「自分の物を買うんじゃないなら行かない」と断るようだ。個人的な外出の希望があれば、手当等についてご家族と相談して、職員が休日に付き添うようなこともある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者様個々の能力に応じて、支援している。少額ではあるが自分で管理している方も居られる。職員におつかいをお願いされる方もおられる。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ホームの電話を自由に利用され、出来ない方は職員がプッシュし、会話を楽しんでいただいている。また、希望される利用者様は年賀状や手紙を書いたりできるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>和風住宅を改築しており、とても家庭的な懐かしい雰囲気がある。玄関には常に季節の草花や、置き物などを飾りつけ工夫している。快適に生活していただけるよう毎日掃除を行い、温度、湿度管理、風通し等に気を配っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>木造2階建ての和風住宅を改修した事業所で、数寄屋門を入ると庭木が玄関まで続いている。玄関には八口ウインの飾りを置いたり、居間には栗や柿の飾りがあった。居間にはソファを置き、訪問調査時には相撲を観戦していた。2階への階段には昇降機の設備があるが、現在使用する方はいない。階段や段差のある暮らしが、利用者の身体機能の維持向上につながっている。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>広い空間ではないが、リビングや食堂で自由に過ごすことができる。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>家具の配置や、風通しの良い明るい部屋作りになるよう工夫している。ホームで撮影した写真を貼ったり、家族様からの花やぬいぐるみ、飾り物等でその人らしい部屋づくりをしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>使い慣れた椅子や家具を持ち込んだり、好きな歌手のカレンダーや娘さんが描いた油絵を飾っている居室がある。利用者のご家族が、みなのために作ってくださった切り絵が各居室に飾ってあった。各居室に換気扇を設置し、換気にも注意をしている。自室の清掃を行う利用者もいる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>バリアフリーのつくりではないが、手摺りを配置し、利用者様々に、室内杖やシルバーカーを使用したり、手引きで移動していただく等、安全に過ごせるよう配慮し、環境整備には迅速に対応している。</p>	